

課題解決に向けた行動計画

東北労災病院

2023年度
第2回地域緩和ケア連携調整員研修（ベーシックコース）

【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名（職種）
東北労災病院・消化器内科	小林 智夫（医師）
東北労災病院・入退院支援センター	萩原 芳香（看護師）
東北労災病院・入退院支援センター	高橋 典子（看護師）

令和5年度 第2回地域緩和ケア連携調整員研修（ベーシックコース）

東北労災病院

①地域の課題

1. 地域連携における課題

- (1) 地域緩和ケア連携には、お互いに顔の見える関係の構築が必要
- (2) 地域緩和ケア連携に際して、患者情報が共有できる情報ツールの立ち上げ
 - * 情報共有ツールの立ち上げに費用と活用の指導を要する

2. 院内における課題

- (1) 他の医療機関と地域緩和ケア連携を進めると並行して、院内における地域緩和ケア連携の啓発が必要
 - * 地域緩和ケア連携に取り組む情報・機会が少ない診療科では連携に時間を要する傾向がある
 - * 上記のような診療科では、緩和ケアを必要とする患者に対する緩和ケア移行の説明が遅れることがあり、患者状態が悪化してから慌てて準備をすることがある
- (2) 体調不良でも限界まで化学療法を継続しているが、緩和ケアが近いうちに必要になりそうな患者への対応。
 - * 診療科のミーティング：複数診療科の医師、看護師、薬剤師、MSWの参加する会議で検討

②どのような地域を目指すのか

1. 地域連携

地域緩和ケア連携の推進のため、地域の在宅療養支援診療所、往診対応診療所、在宅医療を進めている療養型病院との連携をする

2. 院内での連携推進

地域緩和ケア連携の経験症例が少ない診療科への連携手順の提示等の支援
高齢者・独居者・その他問題を抱えた患者の緩和ケアに対しては、診療科ミーティングに緩和ケアに携わる医師・看護師・薬剤師・MSWが参加して情報を共有する。

③課題ごとに取り組むべきことは何か

1. 地域連携

- * 研究会での医師同士の関係の構築
- * 地域医療機関と患者依頼などの情報共有の機会を通じて地域医療機関のMSW・医療相談員・社会福祉士などとの関係の構築
- * 調剤薬局薬剤師など院外の医療関係者の参加する院内勉強会で、当院の医師・薬剤師・看護師との関係の構築
- * 当院で行っているスマイルミーティングの活用：
調剤薬局薬剤師・入退院調整看護師以外の参加職種を増やす

2. 院内連携

- * 診療科ミーティングに緩和ケアに携わる医師・看護師・薬剤師・MSWが積極的に参加して情報を共有する。

④具体的な行動計画 ⑤実施時期

課題	誰が	何を	どのように	いつまでに
地域連携	入退院支援センター 一看護師、MSW	地域緩和ケア患者 の情報共有を通じた 地域連携の推進	「スマイルミー ティング」に参加 する職種・開催 回数を増やす (2023年度 2回 11月・1月開催)	2024年9月
院内連携	緩和ケア診療医師、 看護師、薬剤師、 MSW	地域緩和ケア連携 の仕方の支援	診療科ミーティ ングに必要な院 内多職種の参加 をコーディネート する	2024年9月